

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

No.155
SOUSEI
2011.11

命は
+
繋
がり。



巻頭インタビュー

作麼生

そもそも×せっぱ

説破

司会 今回は「繋がり」をテーマに、先だつて韓国で開催された「国際仏教徒青年交換プログラム」についてのお話、そして組織の重責を担うお二方に、これからの繋がりについて話をお聞かせいただきたいと思っています。

村山 では、まず私から全日本仏教青年会(以下全日仏青)の説明を。いま私が理事長を務めている全日仏青は、日本全国の宗派や地域の垣根を越えて、青年仏教徒の連帯を目的に活動している団体です。WEBY(世界仏教徒青年連盟)にも加盟し、その日本センターとして、世界の仏教徒とも交流を深めております。先の8月25日〜29日に韓国で行われたIBYE(国際仏教徒青年交換プログラム)には、「クラブ25」という、WEBYと共に今後全日仏青が注力する、25才以下の青年仏教徒育成事業の一環で参加いたしました。具体的にはアジア各国の青年仏教徒を一つの国に集め、そこで共に研修生活を送ることで、お互いの文化の違い

全国曹洞宗青年会会長

松岡広也

全曹青・松岡会長が
他宗派と繋がる村山師と語る。
私たちが目指すべき
繋がりのある様とは？

や宗派の違いを超えて交流を育み、将来の活動に活かしていただくという趣旨で行われているプログラムです（9頁に詳細）。

司会 実際に日本からの参加者はどのような様子でしたか。

村山 いろいろな諸事情もあるのですが、日本で25歳以下の参加資格があり日程的に可能な方を当たったところ、最終的な参加者は曹洞宗僧侶1名にとどまりました。しかし大変意義のある参加になったと考えます。というのも実は、これも国が違えばという一例ですが、まず他の国ではこのようなプログラムに僧侶が基本的に参加することはないのです。僧侶は完全な出家者ですので、特に若い僧侶が俗的な世界において営まれるプログラムに、いくら研修であっても参加することは不可能なのです。そういった理由から、他国の参加者は皆在家の方々です。プログラムの名前に「青年仏教徒」と謳われるゆえんです。そのような僧侶の高いステータスが当たり前である国々における国際仏教研修の募集ですので、このプログラムに参加できることは参加者にとって大変な名誉なこととなります。他国から参加した青年仏教徒が皆、大きな責任感と誇りを抱いてその場にいることが一目でわかりました。その中で唯一の僧侶としての参加者が日本からの参加者です。さらに一番年長者であったこともあり、他国の関係者からの注目の度合いが高く、何かと頼りにされている様子でした。特徴的な日本仏教を他国の参加者に理解していただく上で、絶好の状況であったと思います。

全日本仏教青年会理事長

村山博雅



司会 韓国でのBIBFには松岡会長も同行されましたが、実際に現地を訪れてどのような感想を持たれましたか？

松岡 今回は東アジアのBIBFということで、日本・台湾・タイ・韓国の人々が一堂に会した訳です。朝、各国の参加者が合掌で挨拶をしてくださる光景に、国が違って日常生活に仏教が生きているのだなと実感し、国境を越えた仏教の広がりや再確認しました。数日間の研修の中では、参加者に坐禅なども体験していただき、文化交流としても実りのある内容だったと思います。各国の人々の間に、互いの違いを学び合うという雰囲気があったことが良かったです。また、日本からの唯一の参加者であった岐阜曹青の丹治大輔師には、本当に感謝しております。最後の夜のレクリエーションでは、全員の前で祈禱太鼓を披露していただきました。参加者として各国の仏教徒に和合しながらも、僧侶としての一面を随所に見せていただいたことで、出家者と在

家者の壁を乗り越えた交流ができたのではないかと思います。村山さんのおっしゃる通り、丹治師には日本仏教をアピールする大事な役割を果たしていただきました。

村山 私は全日仏青に参加して以来、僧侶としての自分を映す鏡が四方にあると感じています。各国の僧侶や仏教徒の皆様と共に在る事により、日本仏教僧侶である自らを見つめる。これは外で活動することによってしか得られない気づきだったと思います。鏡に映った自らを見つめた上での、「ではどうすべきか」という連続が、これからの日本仏教を作っていくのではないのでしょうか。

松岡 私も会長になって全日仏青、WFBYの活動に初めて参加してみて、ようやく世界の仏教徒との繋がりが見えました。来年のBIBFは台湾での開催を予定していますし、いずれまた日本の順番も回ってきます。今後の青年僧の活動の可能性を広げていくためには、全曹青にも新たな視点が必要で

あると感じました。会員の中にも世界の仏教徒と活動したい方がおられると思います。全曹青から意欲的な会員がどんどん世界に飛び出していけるように、風通しの良い組織でありたいと考えております。

組織に育む「これからの繋がり」

司会 松岡会長から私たち全曹青のお話が出た所で、「これからの繋がり」というテーマに移りたいと思います。それぞれ全曹青と全日仏青の長であるお二方ですが、これから組織に生まれるべき新しい繋がりととは、どのような形であるとお考えでしょうか。

松岡 日々の一僧侶としての活動の中では、なかなか全曹青に属しているという実感がないという会員がおられるのは当然のことです。これから全曹青が全国の会員との繋がりを育むためには、まず、第19期のメンバー

が、一生懸命活動している姿を地元の皆様にお見せしていくことが大切であると考えています。一人一人の姿を通してこそ、全曹青に対しての意識が芽生えるでしょうし、それがまた、管区全体の意識向上にも繋がると考えております。地域も全国津々浦々から、万遍なく参画していただくことも必要でしょう。また、志ある方が活動し易くなる流れを作ることも大事です。この広報誌『SOUSEI』を目につく、自分も会員として活動したいと思っただければ何よりだと思えます。前述の世界との繋がりの話と同様に、全曹青という組織が自分たちに繋がっているのだという実感を、私たちが活動を通してお見せしていかなければならないと思います。

村山 松岡会長の言われたことは全日仏青でも同様で、それを実現するのは一人一人

の意識に他ならないと信じます。先の大震災を例にとっても、曹洞宗はいち早く災害復興支援に動きましたが、全日仏青でも災害支援を行う救援委員会に、会員の過半数以上を充てるなどの改革を行いました。そういう意味で、いま宗派を問わず「意識」が芽生えていると思います。時代の変わり目にあつて、自分たちの活動が果たす役割というものを、多くの青年僧侶が意識している表れであると思います。

司会 最後に、組織を舵取りする「長」としての二人自身について伺いたいと思います。役職への要請があつたとき、とまどいやためらいはありませんでしたか。またこれから長として取り組みたいとお考えの事柄などお聞かせください。

村山 私が理事職に就いたのは「偶々」と言っ

僧侶だからこそ出来ることを通して 自分が何者であるかを見つめたい



村山博雅（むらやま はくが）
昭和46年4月生まれ。慶應義塾大学卒・愛知学院大学大学院卒。大本山永平寺平成11年安居。大阪府豊中市東光院副住職。

未来の全曹青僧侶の為に 下準備をさせていただく所存です



では叱られますが、これは私個人の意志や、やる気で決められるような事柄ではありません。全日仏青の各加盟宗派代表が膝をつき合わせ、次はどの宗派から誰をという話し合いが行われ、それを受けて曹洞宗でも検討が行われた結果ということです。曹洞宗としては1987年以降の25年間、理事長職を担ってはおりませんでした。その後もその時々状況がそうさせたということに他なりません。私個人の思いを述べれば、変換期である現在に、僧侶であるからこそ出来る活動で向き合えなければとの思いを抱いておりました。託された役職の責任を果たしながら、自分が何者であるかを見つめていきたいと考えています。

松岡 全曹青や全日仏青の長というものは、軽々に受けられるお役ではありません。曹洞宗という大きな組織から全日仏青の代表

を出すということは、色々な状況が整わなければ難しい。今回、村山さんという立派な理事長を出すことが出来たのは、曹洞宗としてバックアップをする態勢が整ったということが大きいのだと思います。

私に関して申せば、第18期で「いのちの声」に耳を澄ますをスローガンに掲げて活動を積み重ねてきた皆さんの想いを「偶々」第18期の執行部にいた私が受け継いだだけなんです。己が全曹青の長を果たせるとか果たせないなどと考えて、お請けしたものではありません。全国どの地域に伺っても各曹青会の皆さんは本当に一生懸命活動されています。皆さんが繋がる機会が増えることで、全曹青の活動も更に発展していきます。ですから、これから自分が会長として何をやりたいかを考えるより、まず全国から全曹青に関わっていたいていの方々に、そこで達成感なり使命感という

私たちが活動する姿を通して
全曹青の繋がりを実感していただきたい

萩の花咲く東光院(大阪府豊中市)にて

ものを感じていただけるようにしたいという思いでおります。トップダウンであれをやれ、これをやれではなく、こんなことをやりたい、やってもいいのかなというものを実現出来る全曹青にです。ひいてはそれが組織の力になっていくでしょうし、参加意識の高まりと共に新たな全曹青への幕開けの契機となればと願います。第19期会長として、その下準備をさせていただくつもりでおります。

村山 全日仏青に加盟する各宗派仏青、各地域仏青は教義や方針、規模も様々です。その中であって、組織力と実行力に富んだ全曹青には、各加盟団体の方々からも大きな期待をお寄せいただいていると感じています。これからは有名無実な組織ではなく、機能する組織が必要とされる時代です。私も新しいというと語弊があるでしょうが、諸先輩が作り上げてきた歴史を踏まえて、敢えて一歩出るという覚悟で、活動を展開して参りたいと思います。全日仏青には互いに啓発し合い高め合うことができる環境があります。有事には各団体結束し、それぞれが更なる力を発揮することができる組織があります。様々な可能性と共に、仏教徒としてグローバルな視野も鍛えられる得難い場ですから、多くの青年僧侶に参加していただきたいと考えています。

司会 各々組織の長として、そして一僧侶としての生きたお言葉の数々に、大きな展望をいただいたと思います。本日は長時間のインタビューにお付き合いただき、誠にありがとうございました。

平成23年9月15日・東光院にて



東日本大震災被災地寺院レポート 「供養・救援の拠点となつたお寺」 岩手県下閉伊郡山田町／曹洞宗 龍泉寺

「同じく被災した者として、なんとか共に生き、共に歩んできました」

龍泉寺の長い歴史を刻んできた趣ある庫裡のいりり端で、先代住職の奥さまである節子さんが感慨を込めてそうおっしゃると、息子さんであり、住職を務める石ヶ森桂山師は深くうなずかれた。

山田町織笠地区の山側にある龍泉寺は、震災発生直後からこれまで、ご遺体の仮安置所・葬儀の場として、また、消防団をはじめとする救援団体の活動拠点として役割を果たしてきた。さらには、全曹青による行茶ボ

ランティアの拠点として行茶備品が保管されるなど、心の復興拠点ともなった。

そんな龍泉寺の活動は、大きな混乱の中で始まる。石ヶ森師と節子さんは、師の奥さまのご実家で本震に遭遇。山田町に大津波が来ることを危惧して、奥さまとお子さんをご実家に残し、すぐさま車に飛び乗って龍泉寺に向かった。しかし、釜石市の鵜住居より先に進めなくなり、栗林の消防屯所を経て、林道を山越えし、必死の思いでたどり着く。そして、既に消防団や地域の人々の受け入れに動いてくれていた弟さんとともに、「走りっぱなし」（石ヶ森師談）の日々が始まった。

まず、龍泉寺は、ご遺体の仮安置場所となる。その発端は、ご遺体を搬送していた消防団員の方の「和尚さん、ご遺体をお寺に連れて行ってもいいですか？」という相談だった。別の場所が仮安置所となるまで何十体ものご遺体を安置し、運ばれてくる都度、消防団員と一礼・焼香し、弟さんと読経されたという。その状況の中、「このままではいけない！」との思いから、災害対策本部に向かい、火葬場の早期復旧を打診。

瓦礫の撤去が終わり、夏草が茂る山田町市街地



の元で夜を過ごしたという。龍泉寺で食事とお風呂の提供を受けた人数は、多い時で30名。身を寄せ合いながら生活を共にするその様子は、「まるで家族が増えた」ようだったと節子さんは言う。

そのような中、被災された地域住民の心の状態を心配した師は、久間全曹青前会長に行茶ボランティアの活動について打診。以降、第18期基幹事業委員会の星野師・橋垣師・森田師などのコーディネートのもと、地元避難所での行茶ボランティアを開始する。「さまざまなストレスで押しつぶされそうになっている地元の人たちに、『私たちもいるし、みんな一緒だよ』という私たちの心の中の想いを、言葉ではなく、行茶という行為を通して『寄り添う』という私たちの行動で身をもって伝えたかったんです」。その想いは、連日の葬儀で避難所に足を運ぶのが難しい師から、各地の曹青会員へと引き継がれ、活動の場所を避難所から仮設住宅の集会所に移し、山田町社協やボランティアセンターと連携しながら、今もなお続いている。

取材中、師の表情がふと険しくなった瞬間があった。私が何気なく「読経ボランティア」という言葉を口に出した時だ。師は「読経ボランティア」という言葉には、私にとって変な響きがあるんです。新聞で『読経ボランティアをする兄弟』として報道された際も、大きな違和感を感じました。お布施やお経料という認識が記者の方にはあったのでしょ。でも、弟と私たちは、人出が足らずスイッチを押すだけの火葬では忍びないと、僧侶として、当たり前のこととし



歴史と織笠の人たちの想いを刻んできた庫裡

お寺 応援団

21世紀は心の時代

少し前に大ヒットした『ALWAYS 三丁目の夕日』という映画をご覧になった方も多いでしょう。昭和の、まさに高度経済成長が始まるという時代、東京タワーの建設現場を見上げる下町を舞台に、毎日を懸命に生きる人たちの日常を描いた映画です。なぜこのような「日常描写」がこれほどまでに支持されるのか？と考えたときに、ひとつのキーワードが浮かんできます。「繋がり」です。あの時代、「ご近所の目」という、得体の知れない監視カメラが常に作動しているような息苦しさもあったかもしれませんが、醤油がなければ隣に借りに行くような、極めて敷居の低いコミュニティがあったのも確かです。

高度成長を果たした日本は、その後、核家族化が進み、近所との付き合いも疎遠になっていきます。そして、20世紀後半になって、IT（情報技術）の時代に突入します。情報は、直接人と接するよりも、デジタルの中でやり取りされる。お店で店員と会話しながらモノを買うのではなく、デジタル情報を通じて遠隔で買い物をする。そんなことが当たり前の時代になってきました。

しかし、元来人間というものは、常に人との「繋がり」の中で自己の存在を確かめる、社会性の高い生き物なのでしょう。徐々に、あの時代を懐かしむ風潮が芽生えてきました。「21世紀は心の時代」とよく言われますが、それは、そんなデジタル社会への、ひとつのアンチテーゼとしての意味があるのでしょうか。デジタルの中でも、そのような風潮が表れてきました。「ソーシャルネットワーク」の急速な普及がそれです。

ご承知のように、フェイスブックやツイッターに代表されるソーシャルネットワークは、瞬間間に世界中に広がりました。東日本大震災の際、電話が不通になっている時にツイッターが情報伝達に大活躍したことは、記憶に新しいでしょう。あの日を境に、日本でツイッター人口が一気に増えたとも言われています。ソーシャルとは、社会という意味の英語ですが、なぜあのようなサイトが「社会」なのかと考えたときに、言葉の奥深さを感じずにいられません。使っている人はわかると思いますが、何でもないようなことをひと言書くと、誰かがそれに反応してくれます。その反応は、その人と繋がっている他の人に波及していきます。つまり、クチコミ的にどんどん広がっていく仕組みがあるのです。

その「繋がる仕組み」を総称して、ソーシャルネットワークと呼んでいるのです。社会とは、つまり人との繋がりであり、人間はいつもそれを求めている。あまりに急速なソーシャルネットワークの拡大を見て、そんなことを確信しました。そして、ご近所のお付き合いが希薄になっている昨今、デジタルだけでなく、町のお寺にも「繋がり」の核としての役割を期待してやみません。ITの時代であっても、人は繋がりを求めています。散歩ついでに少し立ち寄る。待ち合わせ場所は、いつもお寺。デジタル時代だからこそ、そんなコミュニティって素敵です。



著者 前野智純 氏
エクストラコミュニケーションズ
(excom.co.jp) という、実践型 EC
プロデュース会社代表取締役。米国留学
後、シリコンバレーで起業。国内、海外
を含めた E コマースを自分たちで実
践しながら、クライアントを支援してい
ます。著書は「キラーウェブ」「プロが
教えるサイト集客のツボ」など計 4 冊。



言葉ではなく、 行為を通して 寄り添っていったら 曹洞宗 龍泉寺住職 石ヶ森桂山師

て読経していたんです。師のこの言葉は、「ボランティア」という言葉を何気なく使っていた私自身にも、今も大きな問題を投げかけている。

私が取材に伺った際、奥さん、奥さんのお母さん、お孫さん 2 人を震災で亡くした初老の男性が、娘さんと二人、お墓の相談にお見えになっていた。師と節子さんは、うなずきながら、じつとそのお話を耳を傾けておられた。震災前から、龍泉寺は沢山の

方がお出でになるお寺だったということだが、震災後はそれに輪をかけてひっきりなしに相談に来られるという。師は言う。「これからも、お檀家さんや地元の人たちの相談を真摯に聴いてさしあげて、『あんまり悩まないで』と伝えてさしあげたい。私たち、またこのお寺が心の拠り所になれるように」。

取材・広報委員会副委員長 長岡俊成



ZENSOUSEI 19th

レポート 全曹青

第19期の始動を胸に 両大本山へ拝登

松 岡会長を始め全曹青三役は、9月27日（火）に大本山總持寺に、翌28日（水）に大本山永平寺に、第19期の始動と三役就任の挨拶にそれぞれ拝登しました。

總持寺では紫雲台貌下に拝問した他、三寶殿では「花まつりセット」に添付され、応募郵送された塗り絵ハガキの奉納供養を厳修頂きました。

また永平寺では、御征忌の盛事中にも関わらず、不老閣貌下への拝問の他に、大田監院老師にも面会させて頂きました。

両貌下ともに拝問の中で、全曹青の災害復興支援部の活動について触れられ、これまでの活動の慰労と、今後の活動へのご励言を賜りました。

両大本山の拝登には、村山特別委員会委員長と桑山法式委員会講師も同行。村山委員長からは、自身の全日仏青理事長就任の挨拶が、桑山師からは再版が決まった『洞上僧堂清規行法鈔』の奉納と報告が、それぞれなされました。また両貌下からは、『洞上僧堂清規行法鈔』再版分に、それぞれ御染筆を賜ることとなりました。

大本山永平寺79世貫首福山諦法師と共に（写真右）
『洞上僧堂清規行法鈔』を手にされる大本山總持寺25世貫首江川辰三禪師（写真左）



委員会総会の様子

平成23年度 委員会総会報告

7 月20日、曹洞宗檀信徒会館4階芙蓉の間に於いて、委員会総会が行われました。執行部の他、総合企画委員会、広報委員会、法式委員会、全日仏青執行特別委員会の委員が一堂に会する年一回の会議です。会長より委嘱状が授与され、また各委員会より活動状況の報告がなされました。久間顧問より災害復興支援部の活動についての説明、報告がなされました。また先般の総会において改正された会則についての説明が荒木副会長よりなされました。「全曹青は有能な人の集まりではない。一生懸命やる人の集まりである」との会長の言葉を胸に、出向者一同、今後の会務へ新たな一歩を踏み出しました。

紀伊半島 豪雨災害へのお見舞い

今夏、度重な豪雨並びに台風による被害が発生致しました。被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

3月の東日本大震災の発生からまだ日が浅く、国土の人心未だ定まらぬ中での度重なる被災に、そのご心痛は察するに余りあり、痛恨の極みに堪えません。

お亡くなりになられた方々へは、謹んで哀悼の意を表し、被災された皆様方の、一日も早い日常生活の復旧・復興が実現されますことを心より祈念致します。

合掌

全国曹洞宗青年会会長 松岡広也

※災害状況並びにボランティア活動に関して、ホームページ『般若』に随時掲載しております。ご覧下さい。

全日仏青



日本仏教の原動力を育成 韓国ソウルで国際仏教徒青年交換プログラム

去る8月25日～29日、WEBY (The World Fellowship of Buddhist Youth・世界仏教徒青年連盟) の主催により、世界各国の青年仏教徒が研修をもとに交流を深めることを目的とするIBYE (The International Buddhist Youth Exchange Program・国際仏教徒青年交換プログラム) が行われました。この度は、WEBY加盟団体で韓国仏教青年会の一ツPSI (People Sharing Happiness) Koreaにホスト役を務めていただき、韓国ソウルにある国際禅センター (The International Seon Center) において開催されました。

国際禅センターは、韓国曹溪宗が昨年11月15日、ソウルの陽川区 (ヤンチョング) 新亭洞 (シンジョンドン) に作り上げた、近代設備の整った伝統と現代的な様式が調和した付まの施設です。「韓国仏教のグローバル化」という旗印を掲げて設けられたと聞きました。現在まきしく、都心の修行センターとして機能しているようで、国籍を問わず多くの禅文化に興味のある方々や参禅者で賑わっていました。

この度のIBYEはEA (East Asia) IBYE 2011 Koreaと題され、東アジア諸国である日本、韓国、台湾、タイの青年仏教徒30

名参加のもと実現いたしました。東アジアに限定されたIBYEは2007年日本で開催されたのが始まりで、その後2010年台湾で行われ、本年、韓国に引き継がれました。地域を限定するメリットは、広範囲にまたがらないため旅費等の負担が少ないなどの省力化にあります。WEBY会長の Ponchai Dingbor氏は、期間中に行われた会議で、EABYEの毎年開催を切望していました。

今回、曹洞宗からは全日仏青理事長・村山博雅全曹青特別委員長と同副理事長・松岡広也全曹青会長が引率者として同行し、曹洞宗岐阜県青年会・丹治大輔師が本プログラムに参加いたしました。参加者は朝4時30分起床、坐禅や食事作法を通じて禅文化に接するなど参禅研修としての意義ある時間を過ごすとともに、韓国の伝統文化に触れるプログラムや市内観光等により深い交流をはかりました。最終日には、各国の伝統的な文化を披露する時間が設けられ、日本は丹治師による祈祷太鼓を披露し大変な好評を博しました。

アジア各国における仏教に対する一般的な価値意識と、日本における仏教に対する価値意識の違いを改めて認識すると共に、今後、日本仏教の在り方をさらに各国に理解して

いただくという課題をいただいたような気がいたします。各国の青年仏教徒が持ち続ける仏教徒としての誇りと絆を、若い日本仏教徒が交流を通じて持ち帰り、将来的な力ある日本仏教の原動力となることを切に祈ります。全日本仏教青年会として、これからもこの交換プログラムが盛んに行われるの一助となるべく、皆さんと共に様々な活動に邁進していきたいと思ひます。

全日仏青理事長 村山博雅



各国の参加者と交流を深めた。

全国曹洞宗青年会の活動は皆様の賛助費に支えられております。
この度ご協力いただき誠に有難うございました。

●佐賀県	●石川県	46 龍傳寺 様	290 長泉寺 様	209 満友寺 様	●北海道第2
250 宝林寺 様	120 妙玄院 様	78 徳本寺 様	295 東海寺 様	216 向川寺 様	115 大玄寺 様
●熊本県第1	●富山県	83 最禪寺 様	●青森県	243 宝蔵寺 様	170 徳木孝尚 様
29 妙音寺 様	83 永久寺 様	99 茂林寺 様	6 正光寺 様	260 松庵寺 様	299 永福寺 様
33 光厳寺 様	149 薬王寺 様	101 成林寺 様	13 嶺松院 様	287 正法院 様	379 法音寺 様
59 円通寺 様	●新潟県第1	110 龍徳寺 様	79 法光寺 様	302 天昌寺 様	419 竜門寺 様
60 含蔵寺 様	358 円光寺 様	113 円照寺 様	100 澄月寺 様	306 洞雲寺 様	●北海道第3
●熊本県第2	366 清岩寺 様	186 雲林寺 様	103 光昌寺 様	321 鏡得寺 様	151 大沢寺 様
105 芳證寺 様	445 永林寺 様	212 東林寺 様	105 東昌寺 様	322 大円寺 様	227 大泉寺 様
●宮崎県	485 長安寺 様	226 常隆寺 様	122 法林寺 様	●北海道第1	460 道貫寺 様
12 台雲寺 様	487 宝泉寺 様	258 龍昌寺 様	183 大乘寺 様	25 龍穩寺 様	
17 慈眼寺 様	496 長楽寺 様	370 秀長寺 様	189 乗照寺 様	89 禅龍寺 様	
64 円南寺 様	●新潟県第2	374 常德寺 様	●山形県第1	94 曹源寺 様	
●長野県第1	716 東光寺 様	405 勝方寺 様	4 慈光寺 様	253 大慈寺 様	
86 円福寺 様	●新潟県第3	436 長福寺 様	32 安養寺 様	482 龍仙寺 様	
217 浄清寺 様	535 普光寺 様	446 天宗寺 様	36 久昌寺 様		
279 大徳寺 様	546 清月寺 様	●宮城県	52 柳沢寺 様		
300 威徳院 様	571 転輪寺 様	35 竜雲院 様	101 長泉寺 様		
306 城光院 様	646 名立寺 様	69 見松寺 様	232 広際院 様		
340 自性院 様	660 耕田寺 様	71 光西寺 様	●山形県第2		
358 安楽寺 様	●新潟県第4	113 繁昌院 様	332 常安寺 様		
370 日輪寺 様	9 東陽寺 様	228 瑞川寺 様	346 長福寺 様		
371 金昌寺 様	38 興泉寺 様	281 光明寺 様	417 繁応院 様		
372 長昌寺 様	53 英林寺 様	282 耕徳院 様	●山形県第3		
●長野県第2	70 永谷寺 様	291 廣潤寺 様	502 楞嚴院 様		
389 宗福寺 様	86 頼勝寺 様	427 雙林寺 様	510 西光寺 様		
417 宗徳庵 様	283 耕太寺 様	461 洞松院 様	639 慶全寺 様		
565 阿弥陀寺 様	285 大傳寺 様	478 活牛寺 様	643 長雲寺 様		
603 長性院 様	296 関泉寺 様	●岩手県	671 海禅寺 様		
●福井県	794 延命寺 様	2 祇陀寺 様	735 冷泉寺 様		
82 禅興寺 様	817 日照寺 様	14 正傳寺 様	●秋田県		
130 宗栄寺 様	●福島県	17 清水寺 様	54 天昌寺 様		
145 瑞林寺 様	33 法輪寺 様	51 蟠龍寺 様	85 寶圓寺 様		
196 空印寺 様	37 伝正寺 様	55 長壽寺 様	128 耕伝寺 様		
269 御誕生寺 様	41 石雲寺 様	120 菅生院 様	157 香積寺 様		
		185 長泉寺 様	179 長泉寺 様		
		233 玉泉寺 様			
		245 常楽寺 様			
		256 曹源寺 様			

ボランティア基金感謝録 平成23年6/21～9/30取扱分

北海道 永祥寺 様
北海道 峯光寺 様
北海道 青柳株式会社 様
東京都 青松寺 様
静岡県 光明寺 様
静岡県 如来寺 様
神奈川県 永津貴大 様
千葉県 満蔵寺 檀信徒 高橋伸之 様
山梨県 武田信光 様
福井県 宗榮寺 久我泰文 様
三重県 四天王寺 檀徒 橋倉紘一 様
全日本仏教会 様
佐賀県曹洞宗青年会 様
三重県第二宗務所青年会 様
曹洞宗静岡県第一宗務所青年会 様
広島県宗務所青年会 様
鹿児島県曹洞宗青年会 様
(順不同)

あなたの未来を強くする

住友生命

あなたの未来を強くする

住友生命保険相互会社

本社 〒540-8512 大阪市中央区城見1-4-35
東京本社 〒104-8430 東京都中央区築地7-18-24
詳しくは最寄りの支社またはスミセイメイトまで。
<http://www.sumitomolife.co.jp>

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

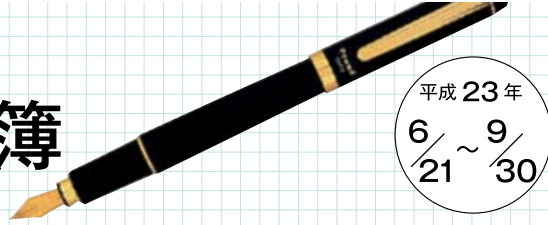
法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本 社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

賛助費浄納御芳名簿



●東京都

5 大安寺 様
17 竜沢寺 様
18 大泉寺 様
88 全龍寺 様
105 鳳林寺 様
171 高岩寺 様
177 清巖寺 様
199 大松寺 様
210 法清寺 様
252 観蔵院 様
258 東光寺 様
330 大泉院 様
346 丹叟院 様
386 竜昌寺 様

●神奈川県第 1

285 泉秋寺 様
329 寿昌寺 様

●神奈川県第 2

13 禪林寺 様
93 曹源寺 様
131 乗福寺 様
135 永珊寺 様
394 長尾寺 様
中野東禪 様

●埼玉県第 1

16 慈眼寺 様
92 浄山寺 様
93 光秀寺 様
161 建福寺 様
190 廣徳院 様

●埼玉県第 2

265 浄心寺 様
271 龍泉寺 様
299 龍穩寺 様
325 金沢寺 様
345 成安寺 様
496 長福寺 様
567 観音寺 様

●群馬県

139 嶽林寺 様
144 雙松寺 様
184 玉巖寺 様
194 善宗寺 様
267 宗泉寺 様
338 龍松寺 様

●栃木県

2 桂林寺 様
43 東光寺 様

69 慶翁寺 様
119 宗源寺 様
125 長興寺 様
129 明本寺 様
131 高德寺 様
161 東陽院 様
166 正慶寺 様

●茨城県

2 天徳寺 様
6 蒼泉寺 様
13 竜泉院 様
132 来見寺 様
160 定林寺 様
172 大聖院 様
182 龍心寺 様
197 長竜寺 様

●千葉県

7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
21 観音寺 様
24 仁守寺 様
29 慶林寺 様
95 寶應寺 様
357 永福寺 様

●山梨県

3 福寿院 様
266 広徳院 様
280 円通院 様
320 宝泉院 様
406 光福寺 様
468 宗泉院 様

●静岡県第 1

5 浄元寺 様
77 龍泉院 様
109 玉泉寺 様
152 宝持院 様
161 庚申寺 様
163 普明寺 様
165 光明寺 様
182 大通寺 様
188 保寿寺 様
193 慶昌院 様
194 福聚院 様
197 立安寺 様
202 先照寺 様
204 永光寺 様
208 延命寺 様
212 千光寺 様
215 貞心寺 様
216 泉竜寺 様
217 清源院 様

219 慈林寺 様
221 宗清寺 様
222 円通寺 様
391 十輪寺 様
459 洞雲寺 様
552 貞善院 様

●静岡県第 2

228 耕月寺 様
250 東光寺 様
259 常雲寺 様
275 法林寺 様
355 楞澤寺 様
362 福泉寺 様
363 観音寺 様
365 重福院 様
368 曹洞院 様

●静岡県第 3

603 江松庵 様
609 医王寺 様
676 孤雲寺 様
831 正林寺 様
988 福王寺 様
1210 雲江院 様
1238 投老寺 様

●静岡県第 4

1101 光雲寺 様
1177 礼雲寺 様

●愛知県第 1

18 大運寺 様
96 全隆寺 様
139 祇園寺 様
166 東陽寺 様
190 天桂寺 様
293 康勝寺 様
313 長松寺 様
354 広済寺 様
622 竜田院 様
629 神竜寺 様
635 永澤寺 様
638 東昌寺 様
1098 薬師寺 様
1192 庚申寺 様

●愛知県第 2

684 花井寺 様
893 法蔵寺 様
915 大栄寺 様

●愛知県第 3

396 龍雲院 様
485 宝安寺 様

●岐阜県

90 林広院 様
148 円頂寺 様
162 清楽寺 様
182 光円寺 様
219 勝林寺 様
239 慈眼寺 様
243 宝禅寺 様

●三重県第 1

4 東陽寺 様
24 一心院 様
33 宗徳寺 様
36 法安寺 様
37 四天王寺 様
38 傳法寺 様
39 庭岩寺 様
40 宝泉寺 様
65 西法寺 様
83 涼泉寺 様
95 天照寺 様
203 等観寺 様
240 安心寺 様
269 大蓮寺 様
364 観音寺 様

●三重県第 2

371 光明寺 様
408 東正寺 様

●滋賀県

10 青龍寺 様
111 神照寺 様

●京都府

46 栄春寺 様
73 春現寺 様
161 禅福寺 様
236 善光寺 様
237 長川寺 様
334 海蔵寺 様
374 等楽寺 様
389 万福寺 様
392 運祥寺 様

●大阪府

26 天徳寺 様
78 桂林寺 様
98 吉祥院 様
109 法蔵寺 様

●和歌山県

57 南珠寺 様

●兵庫県第 1

287 向栄寺 様
331 瑞応寺 様
340 永春寺 様
341 常巖寺 様
375 金剛寺 様
413 吉祥寺 様

●兵庫県第 2

135 弘誓寺 様
160 瑠璃寺 様
173 瑞雲寺 様
221 永源寺 様
247 常楽寺 様
270 臨川寺 様

●岡山県

131 済渡寺 様

●広島県

6 禅昌寺 様
46 雙照院 様
48 真観寺 様
115 医光寺 様
137 正願寺 様
143 常林寺 様
175 雲竜寺 様
178 慶雲寺 様

●山口県

24 吉祥寺 様
25 弘済寺 様
72 真福寺 様
102 保福寺 様
120 長徳寺 様
189 海潮寺 様
213 高林寺 様
236 飯倉寺 様

●鳥取県

16 瑞泉寺 様
54 東昌寺 様
124 願成寺 様
143 瑞応寺 様
153 法蔵寺 様
156 福巖院 様
158 補岩寺 様
163 雲光寺 様
182 東光寺 様

●島根県第 1

209 円通寺 様
333 宝泉寺 様

●島根県第 2

5 地福寺 様
8 祐福寺 様
17 円光寺 様
43 福正寺 様
59 清光院 様
63 竜覚寺 様
64 安栖院 様
66 浄心寺 様
93 法恩寺 様
119 常光寺 様
146 観知寺 様
159 源入寺 様
178 長寿寺 様
203 玉雲寺 様

●高知県

18 藤林寺 様

●香川県

2 見性寺 様

●愛媛県

1 高昌寺 様
112 竜泰寺 様
113 西禅寺 様
146 興雲寺 様
155 禅興寺 様
164 城慶寺 様

●福岡県

25 南林寺 様
77 太養院 様
98 不動寺 様
102 能満寺 様
158 報恩寺 様
174 松源寺 様
178 常閑寺 様

●大分県

16 勝光寺 様
24 海門寺 様
71 慈雲寺 様
110 大泉寺 様
147 有近寺 様

●長崎県第 1

8 円福寺 様
26 鏡円寺 様
47 薬王寺 様
52 青眼寺 様
78 宝泉寺 様
88 慈光院 様

1 ご飯の食べ方を覚えた春

宗侶の皆様ならご存知の通り、僧堂での食事作法は、たいへん複雑なものです。込み入った手順があるとともに、すべての道具を丁寧に扱わなければならない、しかも、比較的素早く食事を済ませなければなりません。もちろん、食べながらのお喋りなどもつてのほかなわけで、外部の方から見れば、苦行以外の何物でもないと思われるかもしれません。しかし、上山後、ようやく作法に慣れてきた頃、儀則通りに食事をするのが面白くなってきたことを覚えていきます。

丁寧に、なおかつ素早く手順通りに事を進めていくと、自分の所作の一々を眺めながら動いているような感覚が生まれました。袱紗を開く動作、応量器を持ち上げる動作、咀嚼する動作など、それまでなら「どうでもいいこと」とすら認識せず素通りしていくだけであったことを、私の認識機構が拾っていくような感じでした。

これが、なかなか面白いのです。新しい認識装置を手に入れたとでも言いましょうか。あたかも新しいおもちゃを手に入れた子どものように、私はその装置が作動する様を楽しみました。

この状態は、未熟ながら、いわゆる「身体のみずみずしき神経の行き届いた」状態だったのでしよう。食事の場面に限らず、宗侶の皆様なら経験されていることと思います。そして、この状態

こそが、メタ認知が働いている典型だと言えます。

2 メタ認知の定義

先回書いたように、本稿は、「メタ認知」を手がかりとして、坐禅と傾聴の類似性を指摘することが目的です。今から本論に入っていきますが、まずは鍵となるメタ認知について説明したいと思います。

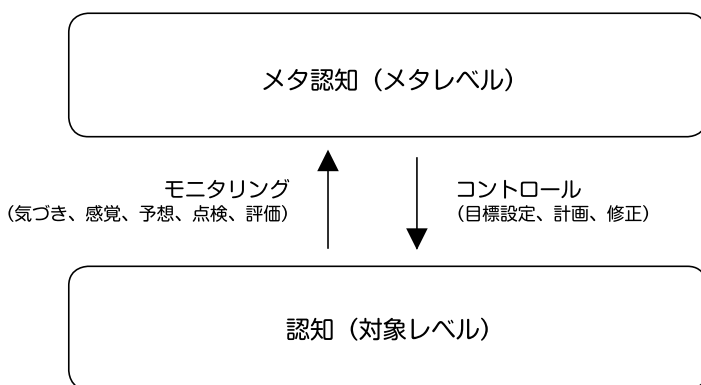
メタ認知は、簡単に言うと「認知についての認知」ということです。私たちは、四六時中、何かを見たり聞いたりしているわけですが、自分が見たり聞いたりしたことを知っています。つまり、「見た」「聞いた」等という認知についての認知もあるわけです。また、メタ認知は、「メタ認知的知識」と「メタ認知的活動」に分類されます。このうち、本稿に関係するのは、メタ認知的活動の方です。このメタ認知的活動は、さらに「モニタリング」と「コントロール」に区分されます。

モニタリングは、「メタレベルが対象レベルから情報を得ること」と説明されます。「対象レベルの認知」というのが、通常の「～を見る」「～を聞く」等と表現される認知です。「メタレベルの認知」とは、「見る」「聞く」といった自身の認知を、内なる眼が監視しているというイメージになるのでしょうか。感覚・動作・思考・感情等を自覚している状態だと言っているでしょう。一方、コントロールは、「メタレベルが対

象レベルを修正すること」と説明されます。単に見ているだけでなく、手も口も出すというわけです（左図参照）。冒頭に挙げた僧堂飯台の場面を振り返ってみると、自身の感覚等に気づき続けているわけですから、まさしくメタ認知のモニタリングにほかなりません（正確で適切な動作をするよう調整するわけですから、コントロールも働いています）。

3 メタ認知と心の変容

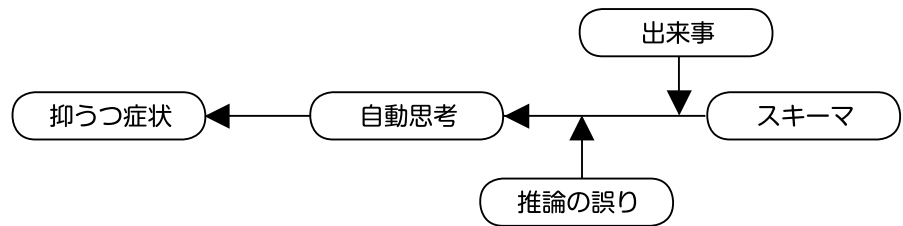
今回は、メタ認知が心の変容において重要な役割を担っていることを述べ



(三宮、2009)



青野貴芳（あおの きほう）
1970年静岡県生まれ。東京大学大学院満期退学。大本山永平寺、宝慶寺にて安居。現在、養雲寺副住職、中里保育園園長、愛知学院大学・富士市立看護専門学校非常勤講師、全曹青広報委員会委託委員。



たいのですが、近年、メタ認知の働きが心理療法の分野でも注目されています。杉浦義典氏は「メタ認知の向上が治療の作用メカニズムの重要な候補であることが明らかになってきた。しかも、もともと独立に発展した複数の治療法に共通するメカニズムらしいのである（杉浦、2008）」と述べています。

一例として、うつ病に対して最も効果的な心理療法であるとされている認知行動療法（以下 CBT=Cognitive Behavioral Therapy と略す）を取り上げてみます。CBTの理論的支柱は、従来、抑うつスキーマ仮説と呼ばれる認知モデルでした。この認知モデルでは、まず、「スキーマ」と呼ばれる固定的な信念が想定されます。何らかの出来事が起きたとき、スキーマに基づいて、自身の意志とは関係なく「自動思考（仏教でいう「妄想」に相当するでしょう）」が生じます。また、その際、「推論の誤り」と呼ばれる認知操作が無意識に行われます。たとえば、Aさんがテストで0点を取ったとします。Aさんが「私は劣った人間だ」というスキーマを持っていて、そのテスト結果を見て、「私は頭が悪い」という否定的な思考が自動的に生じたとしましょう。

この場合、そのテストというただ一回の経験に基づいて、「私は頭が悪い」と思ったのなら、論理的に飛躍した考えです。この思考過程には、「過度の一般化」と呼ばれる「推論の誤り」の一種が働いていると考えられます。そして、否定的な自動思考が繰り返される

ことにより、ある場合には抑うつ症状が引き起こされるとされます。CBTでは、自動思考をチェックし、否定的な思考を合理的な思考に置き換えるという訓練が一般的なようです。それにより、否定的な認知を変えていくわけです。現在、抑うつスキーマ仮説は大方の研究者によって支持されていますが、CBTにおける治療方法は変わっていないようです。

しかし、ここからが本題ですが、認知モデルだけでなく、CBTの治病メカニズムについても、従来とは異なる考えが出てきました。

上記のように、CBTは、自動思考をチェックして、思考内容を合理的なものに変えることにより治療効果がもたらされると考えられていました。しかし、思考内容を変えることではなく、自動思考をチェックすることにより、思考から距離をとれるようになること（「脱中心化」）が効果をもたらすという知見が、ティーズデイルらによって示されました。つまり、思考内容に引きずられることなく、すぐにそこから離れられる技術を磨くことが重要なわけですね。「前後際断」ということです。

思考をチェックするということは、思考を客観的に見るわけですから、自ずと思考から距離をとることになります。これはメタ認知のモニタリング機能にほかなりません。一方、これまで治病メカニズムの肝とされていた「思考内容の変化」もまた、メタ認知のコントロール機能に相当すると考えられます。

ます。いずれにしてもメタ認知が機能しているわけですが、より基礎的な機能であるモニタリングが中心的な役割を担っていると考えられるようになってきたと言えます。言い換えると、モニタリングは、CBTにおいて思考を変えるための「手段」から「主役」へと位置づけが変わってきたということです。

4 おわりに

冒頭では、食事の場面をメタ認知の例として挙げましたが、僧侶の行住坐臥は、四六時中、メタ認知を行動させていることが理想だと思えます（一挙手一投足を自覚しているということです）。「脚下照顧」の認知技術としての側面は、メタ認知なのではないかとも思えます。

とても完璧には程遠かったのですが、何でも素早く丁寧に順序通りにすることにより（上述のように、メタ認知を行動させるのに適した方法です）、すべてのものが尊く思えるようになります。また、そのように食事をする、料理がとてもおいしく感じられるのは驚きました（「おいしい」と言うよりは「細大漏らさず味わい尽くせる」と言う方がいいでしょうか）。

確かに、メタ認知には心を変容させる効果があるようです。

【参考文献】

- ブラウン、A. L.（湯川良三、石田裕久 訳）、『メタ認知』、サイエンス社、1984、6
三宮真智子、『思考におけるメタ認知と注意』、『認知心理学4 思考』、東京大学出版会、2009
杉浦義典、『治療過程におけるメタ認知の役割』、『現代のエスプリ』497号、至文堂、2008
丹野義彦『エビデンス臨床心理学』、日本評論社、2006

02 Air Mail 海外ZEN通信

ヨーロッパ国際布教総監部庶務担当／釜田尚紀



ヴァンセンヌの森にある雲水群像

SÔTÔ ZEN: Le Commencement (曹洞禅のはじまり)

僕の家から歩いて10分くらいのところにヴァンセンヌの森という公園がある。敷地面積約10キロ平米(なんと甲子園球場260個分!)とずいぶん広大で、日頃多くのパリ市民がピクニックやジョギングなどに利用している。フランスは冬になると極端に日照時間が短くなるためか、彼らはお日様が出るとせっせと外に出かけ日光浴を楽しむ傾向がある(と僕は感じる)。しかしこれはパリっていいなと思えた数少ない事例なのだが、木陰でのんびり本を読んだり昼寝をするのは本当に気持ちいい。ヴァンセンヌの森は休日かなり人で混み合う。でも、いかんせん広いので、ちょっと森の中に入ると、静かで人のいない空間が簡単に見つかり、僕は食べ物と本を持ってこの森に出かけることを密かな楽しみとしている。

その森の一画に「雲水群像」と題された矢崎虎夫氏の彫刻のレプリカが存在する。詳しい経緯は不明だが、彫刻された説明によると、1972年、日仏親善と国際文化交流を目的に、有志が「雲水群像をパリに贈る会」を結成し、この場所に設置したそう。ちなみに大本山總持寺宝物殿前にもこれと同じ彫刻が建立されており、公園内をぶらぶら歩いて初めてこの像を見つけた時、何故にこんなパリの片隅で曹洞宗ゆかりの像が!?と、必要以上の胸騒ぎを感じてしまった(笑)。ともかく、この頃から日本の禅の文化は、このフランスに受け入れられていたわけだ。

こちらで職業を聞かれ、「禅宗の僧侶です」と答えると、たいていの人は目を輝かすようにしていろいろと聞いてくる。「ZEN」という言葉はかなり浸透しているようで、その名を冠した商品や店舗もよくみかける。彼等のZENという言葉に対するイメージは「落ち着いた感じのもの」「いいもの」といったものらしい。ただ、じゃあ具体的に禅に対する知識をもっているかという話は別で、宗教と

いうよりは、哲学や道徳的なニュアンスで捉えていることが多い気がする。

ヨーロッパの曹洞宗が、国際布教総監部が存在する他の地域、ハワイ、北米、南米と大きく違う点として、いわゆる日系移民の歴史がないということがあげられる。今でこそヨーロッパ在住の日本人は多い。でもそれは留学の為であったり、仕事の出向であったり、僕も含めて、いつかは日本に帰ることを念頭に置いている人がそのほとんどだ。

一方で、ハワイ、北米、南米では、戦後とくにその土地で骨を埋める覚悟で移民した人々が数多くいた。だからこそ、彼らはお寺や僧侶を必要とし、宗門もその要請に応え、海外布教活動は力強く展開していったのだろう。その歴史は今や100年を越える。

ヨーロッパ布教の歴史はおおよそ40年。その40年前、フランスで曹洞宗の教えを広めた僧侶がいた。聞いた事があるだろうか、弟子丸泰仙(1914-1982)という方だ。坐禅ひとすじ、移動叢林といって全国行脚しながら提唱、坐禅指導を行った澤木興道師(1880-1965)の弟子にあたる。1967年にシベリア鉄道を使ってパリに渡り、片言の英語とジェスチャーだけで、精力的に布教を続け、最終的にたくさんの信者を獲得し、大きな組織を作るにいたった。そして1976年、欧州初代開教総監(現国際布教総監)となる。

また、日本に渡って僧堂修行を積み、曹洞禅を欧州に持ち帰った人々もいる。そのなかに澤木興道師とその弟子、内山興正師が再興した安泰寺で長く修行したヨーロッパ僧侶たちもあり、欧州において澤木興道の名を聞く機会は非常に多い(朝課の歴代祖師の読込で「祖門興道」の名が確認できる)。

さて、そろそろ紙幅つきそうだ。次回もう少し欧州における曹洞禅の種まきの歴史に付き合ってくださいませう。アピアントー。

大本山總持寺前貫首 大道晃仙禪師ご遷化



平成23年10月7日、大本山總持寺に於いて本山独住第24世 慈峰英鑑禪師 大道晃仙猊下茶毘式が執り行われました。前日6日の大夜で営まれた対眞小参では、雲納からの「生死」についての問いに對して、「大道禪師様は一日一日を大切に修行せよとお説きになられた。今を懸命に修行に励みなさい」と

導師を務められた西堂長谷川正孝老師が優しく返答され、参列された宗侶方は在りし日の禪師様のお姿を偲ばれていました。

翌7日、大本山永平寺79世福山諦法猊下大導師の下に茶毘式が厳修され、全国より多くの方々がご臨席されました。

澄み切った秋晴れの下、總持寺

の「開かれた禪苑」たるあり様を象徴するかのようには、子どもたちを含む多くの方々が参列し、一心に手を合わせておられました。あたたかな日差しの中、その様子を猊下のご遺影が優しく見守られている様に感じられ、そのご遺徳が偲ばれました。慎んで哀悼の意を表します

大道禪師を偲んで

紫安敬道(広報委員)

去る6月25日、大本山總持寺前貫首大道晃仙禪師が遷化されました。平成14年10月から約9年にわたって宗門を導いていただいたことに深く感謝し、哀悼の意を表します。

私が、平成13年の夏制中で首座の配役をうけた時、副貫首として宗門の護持に大きな役割を担っておいででした。制中が明けた時に双幅の書をいただき、制中が無事円成した証書のような気がして非常にうれしかったことを思い出します。

また私の祖父である先住と学生時代の同級生ということもあり、私が安居する一年前の学生時代には、鐘樓の落慶法要の導師をお願いし北海道よりはるか九州まできていただきました。その際に修行をがんばるようにと声をかけていただいたこともありました。まさに人に面して温和、行に面して質実のお人柄であったと思います。

大道禪師がよく雲水に「脚下照顧」と声をかけておられました。修行の何たるかを分らずその結果を求めている我々に今の自分と向き合うことの大切さを教えていただいたのだと思います。安居中にはよくわからずにいたのですが、送行しての生活においてこの「脚下照顧」の大切さを痛切に感じております。つねに大衆のあり方と宗門の今後を考えておられた大道禪師でありました。今のこの日本の置かれている状況に対して、宗門僧侶が「脚下照顧」の精神でなすべきことをしていくことが必要ではないかと思うのです。



祐玉寺鐘樓落慶法要に際して
御導師をお勤め下さった在りし日の大道禪師。左下が筆者。



遺囑 【空華墨象 覺路入玄 高山流水 佛祖現前】

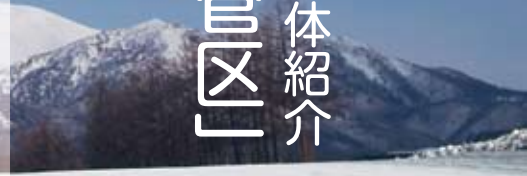


対眞小参の様子



大祖堂を埋め尽くす参列者

各管区加盟団体紹介 「北海道管区」



「果てしない 大空と 広い大地の その中で」(『大空と大地の中で』 松山千春 1977) 大自然に囲まれ、豊穡な土地に包まれ、やさしく温かい人たちに恵まれて、3つの宗務所に21の教区、総勢230名の曹洞宗北海道管区の青年僧侶は、この北の大地でスクスクと育っています。

北海道、その面積は日本の総面積の約2割(22.9%)を上める83,456.75km²です。近所の寺へ行くにも30km以上も車で走らなければいけない地域が数知れずあり、道の途中ではキタキツネや、エゾシカ、はたまたヒグマ(?)が見守ってくれています。また檀家さんのおじいちゃんおばあちゃん、笑顔を見るために、毎日毎日月参りをせっせと務めて、気がつけば車の走行距離が一年間で地球を半周以上していることもしばしばです。

北海道での私たち曹洞宗青年僧侶の活動は、北海道独自とまでは申しませんが、日々の月参りが終わつての茶飲み話はそのまま檀信徒の教化活動につながっています。また寺族会・婦人会の活動が盛んなこともあり、法要のたびごとにお檀家のみなさんも

一緒に御詠歌を熱心にお唱えしています。また通夜の後には通夜説教がありますので、「しっかりと説教ができれば北海道の僧侶として務まらない」とも言われており、私たちは布教に梅花にと数多くの講習会に出席し、研鑽を積んでおります(確かに特に札幌での講習会の出席率はかなり高いものがあります)。明治初期の開拓者の方々のフロンティアスピリットを受け継ぎ、これからの時代の曹洞宗の発信者・先駆者として活躍していける、そんな熱い道産子魂を持った僧侶になってくれるものと大いに期待しています。

管区理事 副島豊道

北海道第一宗務所青年会

当会は函館市から札幌市までの約100名あまりの会員宗師により、研修会・懇親会等の活動を通して親睦を深め会員相互の向上と絆を深めています。また来年度には曹北青小樽大会の開催が予定されており、当番宗務所としてより一層の団結と責任をもつて青年会活動の充実に努めております。

第一宗務所 三浦崇春

北海道第二宗務所青年会

北海道第二宗務所青年会は6つの各教区青年会から現在会員数74名にて構成されています。東端は帯広地区、西端は室蘭地区、南端は日高地区、北端は名寄地区と、北海道を大まかに縦中央に割った地域といえます。

例年の恒例行事は、春季総会、研修旅行(昨年は瑞応寺様拝登、喝破道場様拝登等)、親睦スポーツ大会など。本年は、東日本大震災発生後、足袋に我々の思いを込め託そう、伝えようと、「六千二百足」もの足袋を集め7月11日より岩手県、宮城県へ赴きました。

報道以上に大変厳しい現地に入ること、動かなければ見えてこないものが沢山あり、また、知っている事と出来る事は違うのだと改めて気付かされました。北海道第二宗務所青年会として、見切り発車ではありませんでしたが、我々の第一歩「東北に足袋を贈ろう運動」が会員の中に温かい支援の輪となり広がりを見せ、動き出したのだということを実感しました。普段よりお世話になり、見守っていただいている諸先輩方に助言を頂きながら、役員が先頭になって、これからも会員同志とともに、第二步、第三步を刻んで行きたいと考えております。

第二宗務所 高山和成

曹洞宗第三宗務所青年会

曹洞宗第三宗務所青年会は、昭和41年に発足し、『禅友会』と称して、道北から道東に及ぶ市町村からなる全6教区の青年宗侶をもって構成し、現在は会員49名が活動しています。本会の主な活動は、定期総会・研修会・各教区青年会事業活動報告と意見交換などを行っています。

定期総会は順番に各教区が担当になり、様々な催しを立案し毎回多数の参加者を得て、会員相互の研鑽と親睦に努めています。

第三宗務所青年会会長 西嶋隆元



京法衣 仏具 曹洞宗専門
梅花流法具指定販売店

いにしえ 古代 に学び 新しき を創る

木崎 勉法衣仏具店

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町 51
TEL (075) 681-3441 FAX (075) 671-7260
フリーダイヤル 0120-02-3441

株式会社タナベ経営

新入社員教育実践セミナー

開催概要: 平成24年3月26~28日(2泊3日)
曹洞宗 大昌寺《定員60名》
平成24年4月5~7日(2泊3日)
曹洞宗 大覚寺《定員30名》
受講対象: 新入社員・第二新卒社員



〈お問い合わせ〉
株式会社タナベ経営 北海道支社 担当: 細江・大野
〒060-0005
札幌市中央区北5条西2丁目5 JRタワー・オフィスプラザさつぽろ11F
TEL: 011-231-3211 / FAX: 011-222-2597

災害復興支援部だより

平成23年8月22日・23日の両日、「こども自然ふれあい広場sora2」(主催・全国曹洞宗青年会／曹洞宗福島県青年会)が

開催され、福島県と宮城県の子どもたち24名が参加し、夏の思い出づくりを楽しみました。この行事は、原発事故の影響で野外活動を制限されている子どもたちが多いことから、自然の中で伸び伸びと遊んでもらおうと全曹

青災害復興支援現地本部が中心となり企画。一日目は、奥会津の伝統産業である「からむし織」を体験した後、室内プール遊び、夜はレクリエーションと花火を楽しみました。二日目は「会津の美しい自然を満喫しよう!」と全員で尾瀬沼までトレッキングへ出

発。協力し合いながら目的地へ到達する事の喜びを分かち合いました。最後に曹洞宗福島県青年会・高森正純会長より修了証が手渡された後、スタッフと子どもたち全員で挨拶し、充実した二日間の日程が終了しました。参加した子は「学校のプールには入れないので近くのスイミングスクールに(入りに)行っている。今回は、プール遊びが思い切りできて楽しかった。また行きたい!」と嬉しそうに話してくれました。



一泊二日の短い時間だったかもしれないが、奥会津の自然の中で元氣いっぱい遊んでいたことができて本当によかったです。曹洞宗福島県青年会の皆様をはじめ、ご協力いただいたスタッフの皆様には心より御礼申し上げます。被災地の子ども達も、一日も早く本来の笑顔を取り戻すことを切に願っております。

全国曹洞宗青年会会長 松岡広也

自然に満ち溢れた奥会津で、名産品の「からむし織」や尾瀬の風景に親しみながらの散策、プールや花火大会…。参加した子供たちそしてご協力いただいたスタッフのひと夏の思い出になったことと思います。

曹洞宗福島県青年会会長 高森正純

災害復興支援部活動報告

被災地では、避難所から仮設住宅に生活空間が移行し、仮設住宅での行茶活動のニーズが多くなってきました。東日本大震災から半年が過ぎましたが、現地においてはまだまだ多くのボランティアを必要としております。その活動を支援するため、ボランティア基金を引き続き募集しております。また、長期化する避難生活の中で、《誰かとつながっているというやささぎ、安心感を交換したい。文通を通して、温かい言葉、心をかわしたい》という多くの方々の思いを受け、「虹のかけはし文通プロジェクト」活動を行っております。詳しくは全曹青ホームページをご覧ください。今後も一層のご協力をお願い申し上げます。

「東日本大震災被災地復興再生支援」

東北地方太平洋沖大津波で被災した岩手県陸前高田市。
高田松原の七万本とも言われる流木松を再生利用して制作しました。名松たちといつも一緒に、亡くなられた方々のご冥福と被災地の復興を願い、高田松原の松林の再生を見守ってください。



※写真提供:陸前高田市
海岸山 普門寺様



百八玉念珠正絹紐房(桐箱入)
尺六12,500円 尺二10,000円



男・女性用単念珠(桐箱入)
正絹房(色は各種ございます)4,800円



ロゴは、松とRの文字を重ね、津波の猛威にも負けずに立ち続ける一本松が力強くガッツポーズしている姿をイメージしました。

放射線等測定検査を(財)新日本検定協会に依頼し、放射線、放射線量及び放射能面密度ともに不検出との証明を受けております。

”陸前高田の松原の再生を支援する会”

東日本事務局／創文社印刷(株)内 〒420-0812静岡市葵区古庄二丁目7-16
お問い合わせ／090-3382-0972(海野まで)
ご注文／FAX専用054-265-2180又は
E-mail/f.yasumoto@soubunsya.co.jpまで
ご寺院名、送付先住所、ご注文の内容を明記の上ご送付ください。
10～15日後に到着するようお送りいたします。
お支払いは代金引換でお願いいたします。(全曹青会様の送料・手数料に準じます。)

※収益金(諸経費を除く)を被災地の復興と高田松原の松植林事業の基金に充当させていただきます。

こちら 全曹青 real voice



本大震災発生以来、困難な状況の中早々に駆けつけて下さり、物資・お見舞い・お励ましのお言葉をたくさん頂き、今も復興に向けてたくさんのご支援を継続頂いておりますこと誠に有難うございます。言葉では言い尽くせませんが、この場をお借り致しまして御礼申し上げます。合掌

北海道／副島豊道



第19期北海道管区理事を務めております、北海道第3宗務所第6教区白麟寺副島豊道です。この度このような大役を仰せつかり、ひたすら恐縮するばかりです。全曹青に関しましては浅学の身ではありますが、曹洞宗青年僧侶がこれからの時代に求められる僧侶に成長できる、そんな全曹青を目指して、他の理事さまや執行部役員の皆さまと力をあわせ、松岡会長を支えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

東北／稲田泰久



この度東北管区理事に就任させて頂きました岩手曹青の稲田でございます。浅学非才ではございますが何とか勤めさせて頂きます。さて、あの東日

関東／山本泰幸



ボランティア活動を積極的に行われる方、法式にこだわりの方、皆さんのアイディアを持つていらっしゃる方との縁に出会い私自身も、すっかり「精進しなければ」と思う一年間でありました。全曹青のようにたくさんの方達で活動することによって色々な可能性が広がる事を実感させて頂いております。後一年、精一杯協力させて頂きますので、伏してよろしくお願ひ申し上げます。

東海／前田福之



管区理事に就任してから、早いもので一年半が経ちました。今まで全曹青に全くと言っていいほど、関わりがなかった私が、何とか勤めていられるのは、執行部の方や、他の管区理事様、そして地元の東海管区、各曹青の皆様等、周りの方々のお

北信越／櫻井利行



北信越管区理事として全曹青に参加させて頂いたくようになり、数ヶ月経過いたしました。その間に、多くの皆様の御意見を伺う機会が増え、大変勉強になっております。それらの貴重な御意見を参考にし、理事としての責務を果たしていく所存であります。浅学非才の身ではございますが、二年間務めさせて頂いたでございますので、よろしくお願い申し上げます。合掌

近畿／天野祐至



京都曹青に所属し第18期と今期より引き継ぎ近畿管区理事を拝命致しました。全曹青と近畿管区との繋がりがより一層深くなるようお手伝い出来ればと思っております。また今期のスローガン

は『今が明日への新たな一歩』を掲げております。今、私たちに何が出来るか、また何をすべきか。私も一人の理事として責任を持つて行動し、執行部並びに各委員会の活動を支持して参りたいと思っております。

中国／清成良知



青年会は、横の繋がりが大切であると日々感じております。ひとつの行事を皆で作っていき、一人一人では感じられない連帯感、達成感を共有出来た、お互い切磋琢磨しあえる場ではないでしょうか。色々な人と出会い、色々な話が聞け、そこから学ぶ経験は青年僧侶としても、大きな糧になります。また全曹青は全国を一つに繋げられる貴重な組織ではないかと思っております。今のこの時代だからこそ尚更一つに繋がる必要性も感じております。中国管区理事として、これから全曹青を盛り立てていくよう、まずは管内六つの青年会が一丸となれるよう精進して参りたいと思っております。

四国／能仁賢宗



はじめに、東日本大震災で亡くなられた方々に深い哀悼の意を表するとともに、

被災されたすべての皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。この度は私は四国管区理事の大任を拝命いたしました。本年は、3月に発生いたしました東日本大震災をはじめ天変地災による甚大な被害が起き、今尚多くの方が大きな不安の中で生活をされています。第19期全曹青のスローガンは『今が明日への新たな一歩』と掲げております。私達一人一人が今と向き合い、今何が出来たのか何を成すべきかを考え実行していく。その中で、私は全国と管区とを密接に繋げ共に歩んでいくための橋渡しをしていく所存です。まだまだ浅学非才の身ではありますが、全曹青・管区曹青・宗門、そして全ての人が明るい一歩を踏み出せますよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。合掌

九州／秋吉龍成



今期、全曹青九州管区理事の任を拝命致しました。全曹青と九曹青の相互活動や意見交換の橋渡し役となり、宗門の活性化に寄与できるよう精進致します。これからの1期2年間、よろしくお願ひいたします。

(文中敬称略)

写真館 sousei



「愛語」 撮影／万年守玄（広報委員）

人種に関係なく、お互いにかかる言葉は同じような気がします。互いを思い合ったり励まし合ったり叱り合ったり…。このお年寄りの周りにも愛語をかけあう人々はあふれていました。【撮影地／英国】

【写真の募集要項】全曹青広報委員会では、皆様からの写真作品を募集しております。詳しくは下記のメールアドレスまでお問い合わせください。
photo@sousei.gr.jp 次回テーマは「利行」です。

■表紙の話 「指人形」

お父さんお母さんのお父さんお母さん、
そのまたお父さんお母さんと命は連綿と繋がっていて、
「私（女の子）」が今いるんだよという、
命の繋がりをテーマにキャッチを作成し、デザインしました。
それと平行して、お坊さん同士の繋がりを、人と人の繋がりを、
私もあなたも繋がっているという意味を込めました。

撮影／日山賢吾 デザイン／広瀬知哲 指人形制作／日山美香



編集後記

「全曹青とは有能な人の集まりではなく、一生懸命やる人の集まりである」とは会長の今年7月の委員
会総会での言葉でした。とは言え、
昨期執行部の一員となり、やはり
凄く人の集まりだと思いました。
会長、事務局、各委員長が驚くべ
き量の会務をこなしていました。
そこではどなたも確たる自分の信
念を持ち、会の為、会員の為に力
を尽くしていました。会議は2日、
3日にわたり、時にはホテルの部
屋で徹夜で会議をしていました。
私も微力ながらパソコン係として
そんな皆様のお手伝いができた
事をとても有難く思います。関わ
りがあつた広報委員会に今期は
ホームページ係として所属してい
ます。今期広報Webの目標は加盟
曹青会との連携を強めること。久
間前会長の「全曹青は実験場では
ない。」との言葉を肝に命じ、会員
のため、熱く頼もしい委員長の下、
一生懸命務めさせていただきま
す。「やればやるほど仕事が増える」と
も聞きましたが…。

（広報副委員長・山田俊哉）

守り伝えられし大切な伽藍、
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震



<http://www.caname-jisha.jp>

■ 本社	栃木県宇都宮市平出工業団地38-52	電話：028-663-6300
■ 名古屋支店	愛知県一宮市森本4-15-23	電話：0586-71-2882
■ 岡山営業所	岡山県岡山市北区今8丁目13-13	電話：086-245-2541

全国からの願いを御奉納 今年も花まつりキャンペーン



今年度も『花まつりキャンペーン』と称し、

甘茶・花の種などを同封した花まつりセットを頒布いたしました。総頒布数は約二万五千セットとご好評をいただきましたこと、全国御寺院様の当会に対するご理解の賜物と存じております。ご購入いただきました皆様には深く御礼申し上げます。

当キャンペーンでは、同封の返信塗り絵ハガキに願文を書いて頂き、両大本山へ奉納しております。上は90歳から下は2歳まで、北は北海道から南は九州まで、年齢・地域を問わず多くの方々から、白象に乗ったお釈迦さまのイラストに願いを込めて、塗り絵ハガキを返信いただきましたこと、紙面を借りてご報告いたします。

その中には、「お花屋さんになりたい」という可愛らしい願いもありました。「亡き父母の菩提」を塗り絵にしたためる方もありました。

「被災地の復興と被災者の安心な暮らし」を願う声もありました。また、被災地からの原発を憂うハガキもありました。その一つ一つに一人一人の背景と想いが込められ、受け取った私どもにも感銘を与えてくれました。

そんな多くの想いと願いを込めて、東海・北信越・中国・四国・九州管区のハガキを大本山永平寺へ、北海道・東北・関東・近畿のハガキを大本山總持寺へ、謹んで御奉納させて頂きましたこと、紙面を借りてご報告いたします。

来年度も装いを新たに『花まつりキャンペーン』を実施いたします。布教教化の一端を担えるよう、ご活用いただければ幸甚に存じます。

大本山永平寺監院老師へ届けられた全国からの塗り絵ハガキ。(写真上)
大本山總持寺へは、三宝荒神大祭法要に塗り絵ハガキを奉納いたしました。(写真下)



全国曹洞宗青年会 第二十期会長選考について(公募)



会長選考委員会に於いて、会則並びに細則に従って下記の事項が決定されました。全国曹洞宗青年会第二十期会長に立候補する者は、左記の要綱に従い、立候補届けを完了して下さい。

全国曹洞宗青年会 第二十期会長選考委員会 委員長 山本泰幸

全国曹洞宗青年会 第二十期会長選考委員会 届出要項

- 一、立候補届け並びに履歴書の提出
- 二、立候補者の曹洞宗青年会における経歴書の提出
- 三、推薦状 ①管区曹青年会代表者

②曹青年会代表者

- 四、立候補に当たって執行方針の提出
- 五、立候補届送付先

全国曹洞宗青年会 第二十期会長選考委員会 委員長 山本泰幸

〒四〇八〇一一二

山梨県北杜市須玉町若神子二七三九 正覚寺内

電話 〇五五一一四二二二五〇

- 六、立候補届け出期限 平成二十四年一月三十一日(火)必着
- 七、立候補届け出方法 必ず郵便書留にてお願い致します。
- 八、選考委員会構成員

選考委員長 山本泰幸 (関東管区理事)

選考副委員長 前田福之 (東海管区理事)

選考委員 松岡広也 (第十九期会長)

稲田泰久 (東北管区理事)

天野祐至 (近畿管区理事)

能仁賢宗 (四国管区理事)

秋吉龍成 (九州管区理事)

副島豊道 (北海道管区理事)

櫻井利行 (北信越管区理事)

清成良知 (中国管区理事)

*会則につきましては『般若』に掲載しております。